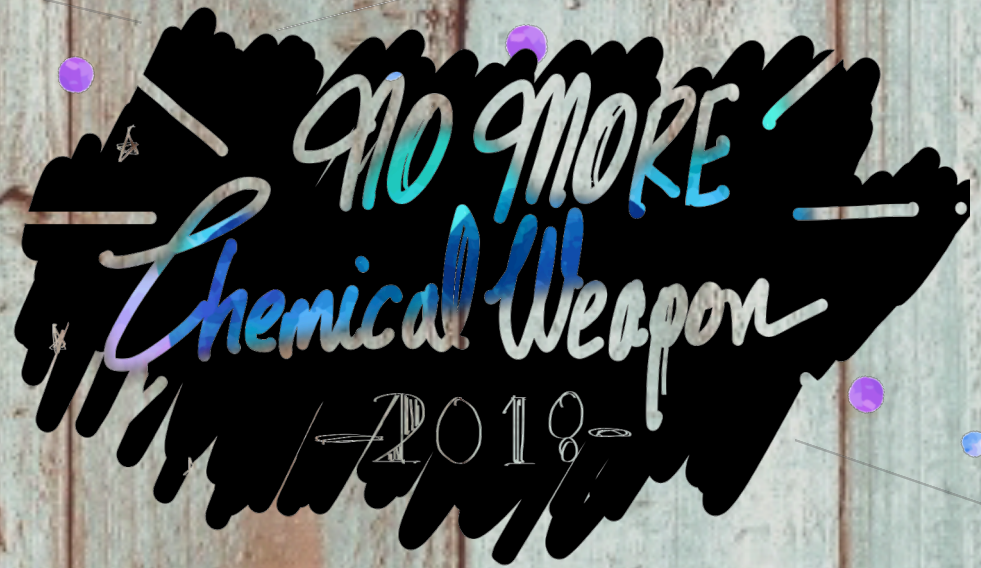
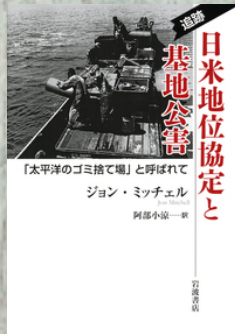




Photo by Hiroko Tanaka



NO MORE 化学兵器 2018

基地公害と化学兵器被害の実態から見えてくるもの

2019年1月26日(土) 14時 (13時半開場) @文京区民センター2-A

申込不要・参加費 ¥500 / 22歳以下無料※要証明書

KEY NOTE
SPEECH

日本における遺棄毒ガス被害の現状 北宏一朗さん / 毒ガス研究者

MAIN
TALK

追跡 日米地位協定と基地公害 「太平洋のゴミ捨て場」
と呼ばれて ジョン・ミッチェルさん / ジャーナリスト

CONCEPT

旧軍が遺棄した毒ガス（化学兵器）による被害について
多くの人に知ってもらうために年に一度開催している企画

WHAT'S NOMORECW

70年以上にわたり、米軍基地は、米軍が使用する放射性廃棄物、枯れ葉剤、劣化ウラン、PCB やヒ素などの有害物質で日本を汚染してきた。そして、高濃度の毒物が河川、海、土壌を汚し、米軍兵士や軍雇用員、地域住民の健康を害してきた。環境意識の高まりから米国内や他国では浄化に乗り出すが、日本では地位協定が基地公害を隠蔽する。

一方、大戦中、日本陸海軍は国際法に反し、毒ガス兵器を製造し、戦闘で使用。敗戦を機にそれらの隠蔽を図り、中国及び日本国内に遺棄した。そして、そうした遺棄毒ガス兵器（化学兵器）によって、戦後、何ら関係のない人びとがそれらの兵器に触れ、被毒し、働くことのできない体になっている人も多い。しかし、被害者は、何の補償も受けず、自力での生活を強いられている。

この二つの事実から、汚染物による被害実態について考えたい。今年は、沖縄や横須賀基地などの知られざる汚染を暴き、今年5月に「追跡 日米地位協定と基地公害『太平洋のゴミ捨て場』と呼ばれて」を出版したジョン・ミッチェル氏に、沖縄で起きている基地公害の実態について伺う。

ジョン・ミッチェル / Jon Mitchell

「追跡・沖縄の枯れ葉剤：埋もれた戦争犯罪を掘り起こす」（高文研）、「追跡・日米地位協定と基地公害」（岩波書店） 著者。2015年、日本外国特派員協会の「報道の自由推進賞」の「報道功労賞」を受賞。1974年イギリス生まれ。1998年に来日して以来、沖縄の人権問題、化学兵器、軍隊による環境汚染の問題などを取材。沖縄の米軍基地報道は新聞各紙で採り上げられ、また、その取材を元に製作された琉球朝日放送のTVドキュメンタリー番組「枯れ葉剤を浴びた島：ベトナムと沖縄・元米軍人の証言」（2012年）は、日本民間放送連盟賞 テレビ報道番組 優秀賞を受賞している。2016年から沖縄タイムス特約通信員。明治学院大学国際平和研究所研究員。

BIO

※撮影が入る可能性があります。

※報道関係者は主催ウェブサイト「コンタクト」より必ず社名、氏名、ご連絡先を明記の上、事前にご連絡願います。

INFO

主催 化学兵器被害解決ネットワーク (CRDCW)

<https://crdcw.jimdo.com/>